

# 岐阜農林事務所の普及活動状況

平成28年12月31日現在

## 今月の重点活動

### ■祝だいこん 目揃会を開催し、出荷始まる

12月16日に、JAぎふ則武支店において、生産者、市場関係者、JAぎふ担当者など約60名が出席し、祝だいこん目揃会が開催された。JA全農岐阜担当者から、競合産地動向や市場からの要望数量などについて情勢報告を受けた後、JAぎふだいこん部会役員から今年の規格表の説明があった。

役員からは、「祝だいこんの規格には優品はない。規格に合わないものは、ちゅうちょなく破棄して欲しい。」など選果・選別の徹底と規格の遵守を促す発言があった。

農業普及課からは、今年のは種前後の天候を振り返り、現在白さび病が発生していることなどの情報提供を行うとともに、昨年実際にクレーム品となった写真を示し、岐阜に対する消費者の信頼回復には、生産者全員が規格を守ることが重要であることを強調した。

祝だいこんの出荷は12月21日から始まり、大阪市場に向け約72万本が出荷される予定である。  
(園芸産地支援第一係・近藤 勝)



【目揃会の様子】

## 活力ある新産地づくり

### ■アスパラガス 反省会を開催

12月15日、JAぎふ正木支店において、羽島市アスパラガス部会反省会が開催された。今年3月4日から10月14日まで出荷があり、数量、金額、単価ともほぼ前年並みの販売実績であった。

農業普及課からは、アザミウマ類の発生調査や遮光資材の試験結果などについて報告し、来春芽に向けた管理についても指導するとともに、今後の部会活動の活発化に向け、生産者に対し部会活動に関するアンケート調査を実施した。

農業普及課では、今後アンケート調査結果を取りまとめ、部会役員会に提示し、部会活動計画の作成などに役立てる予定である。  
(園芸産地支援第一係・松浦香絵)



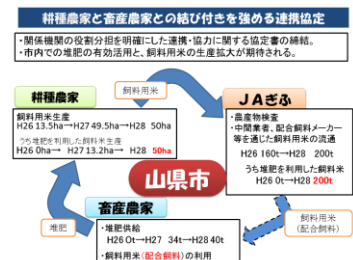
【反省会の様子】

## 多様な担い手づくり

### ■中山間地域の集落営農 堆肥散布の計画策定

12月14日、山口市富波公民館において、農事組合法人あおなみの運営会議が開催された。山口市では、耕畜連携に基づき堆肥を散布して生産する飼料用米に対して、産地交付金の加算金を交付しており、当法人も平成29年産から取り組みを開始する飼料用米生産について、制度を活用するために必要な準備等について調整を行った。

農業普及課からは、耕畜連携の仕組み、品目別の補助金体系及び平成27年度に実証した堆肥を活用した栽培暦と収量・生産コストの結果を報告した。今後は、堆肥散布後の管理指導を継続し、目標単収の達成を支援していく予定である。  
(地域支援第三係・吉田一昭)



【耕畜連携関係図】

## 売れるブランドづくり

### ■水稻 JAぎふ特別栽培米の取り組み支援

12月15日、JAぎふ特別栽培米生産推進協議会が開催され、今年度の集荷実績と次年度の生産計画等について協議した。平成28年産実績は、作付面積が約116ha、出荷量が7,480俵であり、平成29年産の生産計画は、作付面積が約111ha、出荷量が7,005俵となった。

農業普及課からは、今年度の生育状況、生育調査の結果を報告するとともに、平成29年産の取り組みポイント、ジャンボタニシ対策について説明した。

J Aぎふは、米価低迷に対応した独自の販売戦略を展開しており、特別栽培米の取り組みもそのひとつであり、農業普及課では、今後も当協議会の活動を支援していく予定である。

(地域支援第一係・丹羽宣子)



【推進協議会の様子】

### ■にんじん 地元飲食店での利用促進

各務原市園芸振興会にんじん部会、各務原市、J Aぎふ及び農業普及課は、「にんじん産地戦略会議」を組織し、産地の維持拡大を目指している。

同会議では、にんじん産地の地元における認知度向上を目指し、これまでに各務原市が市内で実施したアンケートで、この趣旨に賛同した5店舗に試作用として生鮮にんじんを提供し、タイアップによる各務原市産にんじんを使った料理の提供を試みた。

生鮮にんじんでは提供期間に限りがあるため、今後は、周年利用ができるようペーストにんじんを試作し、賛同店舗を15店舗程度に拡大し、年内に再度試みる計画である。

農業普及課は、今後ペーストの種類、売価などの決定に向け、関係機関とともに地元へ愛される産地づくりを進める予定である。(地域支援第二係・魚住雅信)



【店舗紹介チラシ】

### ■えだまめ 第3回えだまめ産地戦略会議を開催

12月7日、J Aぎふ合渡支店において、J Aぎふ、J A全農岐阜、県園芸特産振興会、県関係者が参集し、えだまめ産地戦略会議を開催し、産地振興プロジェクトに掲げている項目毎に、前回以降の進捗状況の確認と今後の取り組みについて検討した。

若手生産者の育成については、10月の役員会でJ Aぎふえだまめ部会内に若手生産者の担い手組織を作ることが了承され、年明けには代表者を選任する旨の報告があった。今後は、部会組織の底上げに繋がるよう、関係機関が一丸となって支援をしていくことを確認した。

また、選別作業受委託実証試験の結果については、品質によって利用料が変動すること、精選別機を導入しても、選果員1人を減らすことはできないものの、荒選別の段階で利用することは可能であるなどの報告があった。今後は、収穫時間の検証や選果規格の見直しなど総合的な取り組みが必要であるため、取り組みの柱を決め、産地収益力の強化を目指していくことなどを確認した。

農業普及課では、今後も関係機関と連携し、えだまめの産地振興に向けた取り組みを支援していく予定である。(園芸産地支援第一係・川部 知)



【産地戦略会議の様子】

## 住みよい農村づくり

### ■いちご 岐阜市産「濃姫・美濃娘」PR試食会を実施

12月10日、岐阜市内のマーサ21において、J Aぎふ岐阜市いちご部会青年部が、岐阜市産いちご「濃姫・美濃娘」のPR試食会を実施した。試食会は、来店したお客様に、濃姫と美濃娘を1粒ずつ食べてもらい、どちらが好みかを問う方式で行われた。

試食した約140人のうち、濃姫を好む消費者が約6割にのぼる結果となり、試食した消費者の中には、「濃姫、美濃娘が岐阜のいちごであることを初めて知った。」などの意見もあり、岐阜いちごの認知度向上にも繋がった。

試食会は来年1月にも計画されており、農業普及課では関係機関と連携し、PR活動を支援していく予定である。(園芸産地支援第一係・三和浩一)



【いちごPR試食会の様子】